

平成２２年度第１回社会教育委員会議（要録）						
開催日	平成２２年７月９日（金）			開会時間	１０時００分	
会 場	市役所４階 ４０１会議室			閉会時間	１１時３０分	
委員の 出欠状況	石川 孝雄	出	中村 哲	欠	◎ 大谷 鐵子	出
	横 溝 健	出	中尾 真弓	欠	勝又 眞紀	欠
	秋葉真佐子	欠	内山 昌明	欠	藤田志津子	出
	○ 鳥飼八五良	欠	伊藤 芳夫	欠		
	村山喜三江	出	小林 貴博	出		
	北原 節子	出	井上 真弓	出	◎議長 ○副議長	
傍聴者	１名					
事務局	【教 育 委 員 会】大久保教育長、富澤部長 【生 涯 学 習 課】星野課長、亀井課長補佐、菊池統括主査、谷保主事、 永堀社会教育指導員 【スポーツ青少年課】富澤課長					
議 題	・ 教育長あいさつ ・ 議長、副議長選出 ・ 議長あいさつ ・ 職員紹介 ・ 新委員紹介 ・ 議事 １ 平成２１年度生涯学習事業報告、平成２２年度生涯学習事業計画 ２ 平成２１年度文化財保護事業報告、平成２２年度文化財保護事業計画 ３ 平成２１年度青少年担当及び健全育成関係団体事業報告、平成２２年度青少年担当 及び健全育成関係団体事業計画 ４ 平成２１年度生涯スポーツ振興事業報告、平成２２年度生涯スポーツ振興事業計画 ５ 平成２２年度社会教育関係団体への補助金交付について ６ 協議 テーマ「地域の子育て力を考える！～生涯学習に何ができるか～」 ・ その他					

1 開会

〈事務局〉

- ・ 会議の内容については、要点記録の会議録作成後、公開する旨を説明。
- ・ 本会議は市民参加条例第12条第4項の規程により公開となっている。傍聴人1名。

〈大久保教育長あいさつ〉

- ・ すっきりしない天気が続き、関東地方も今年の梅雨は雨量が多い。特に九州地方では、大きな災害が起きている。うっとうしい梅雨も、梅雨あけは関東地方では平均すると7月20日ごろで、あと2週間ほどかかるか。
- ・ 学校の方はちょうどまとめという時期で先生方もお忙しいころだと思われる。
- ・ 本日は議事として大きく3点ほど用意している。特に3番目は「地域の子育て力を考える!」、この議題についてはすでに委員の皆様から貴重なご意見等いただいている。特にこの和光市は都市化が進んでおり、そういった中で地域社会のつながりが非常に希薄になってきた背景から、家族であるとか、また地域社会が担ってきた子育て支援機能が低下してきている。
- ・ 大変重要な課題と受けとめているので、更に審議していただき生涯学習に何ができるか、どういう支援ができるか、というところまで踏み込んでいただければありがたい。限られた時間ではあるが、審議のほど宜しくをお願いしたい。

2 議長、副議長の選出

〈事務局〉

- ・ 和光市社会教育委員会議程第4条第2項に基づき、議長、副議長の任期が1年となっているので選出を行う。
- ・ 同第4条第1項により互選によると規程しているが、自薦・他薦がないようなので事務局より推薦。
- ・ 議長：大谷鐵子 副議長：鳥飼八五良 ⇒ 任期1年

〈議長あいさつ〉

- ・ 昨年に引き続きまして、社会教育委員議長仰せつかった。1年間精一杯やらせていただく。皆様の諸々の意見なくしては務めきれないと思うので、ご協力宜しくお願いしたい。

3 職員あいさつ、新委員紹介

〈事務局〉

- ・ 事務局職員自己紹介。
- ・ 新委員：和光市PTA連合会会長、中村哲氏（欠席のため事務局より紹介）

4 議事

〈議事進行：大谷議長〉

(1) 各種事業報告、計画について

〈事務局説明〉

- 1 生涯学習事業平成21年度事業報告（特徴ある事業についてはパワーポイントによるスライド説明）、平成22年度事業計画について
- 2 青少年担当及び健全育成関係団体事業平成21年度事業報告、平成22年度事業計画について
- 3 生涯スポーツ振興事業平成21年度事業報告、平成22年度事業計画について
- 4 文化財保護事業平成21年度事業報告、平成22年度事業計画について

但し、議事1～4については、事前に資料配布を行い、委員に一読していただいていることから、説明については一部省略。

〈意見〉

（村山委員）

- ・ 各種事業報告については、できるだけ参加人数を記入して欲しい。
- ・ 和光市・十日町スポーツ交流会について、参加人数360人という数は非常に多い。この人数は和光市だけの人数か。十日町も合わせてか。佐久市・和光市スポーツ交流会については85人で、これは和光市内だけの人数である。記載基準を同一にした方が良い。

(2) 平成22年度社会教育関係団体への補助金交付について

〈事務局説明〉

平成22年度社会教育関係団体への補助金交付についての説明。審議依頼。 ⇒ 承認

(3) 【協議】 テーマ「地域の子育て力を考える！～生涯学習に何ができるか～」

〈事務局趣旨説明〉

- ・ 「子育ての社会化ー地域みんなで子育てしよう」が謳われて久しいが、当事者以外の地域住民に何ができるだろうか。その際、生涯学習に求められているのは何だろうか。
- ・ 保育園、子育て支援センター、ファミリーサポートシステム、学校、保育クラブ等のインフラが整備され、今年度からは子ども手当という経済的支援も行われている現在、“子育ての社会化”は、“地域が子どもを慈しみ育てる”ことに目を向けるべきであろう。
- ・ このような視点から、今回社会教育、生涯学習分野でご活躍の委員の方々にご意見を伺いたい。

- ・ 本会議で種々のご意見を出していただいた後には、生涯学習課としては事業を企画する際の指針とさせていただき、委員の皆さんには各活動分野あるいは地域での活動に役立てて欲しい。

＜意見＞

（石川委員）

- ・ 市外に住んでいるが、事業報告・計画を見ると、自分が居住している市と比較し和光市は色々な事業に活発に取り組んでいる。
- ・ 生涯学習の視点から“子育て”について論じて欲しいということだが、職場である高校の生徒を見ていて感じていることを話したい。
- ・ 現在リーダーシップをとれる子どもが減ってきている。こういう資質は小さい頃から身につけられないか。それには、施設の開放などで、世代を超え、あるいは子ども同士が、自然に集れる、遊べることが大切。
- ・ 塾に通っている生徒が多く、特に中学生の大半がそうである。塾通いを少しでも減らして、仲間同士のつながりが作れば、リーダーシップ育成につながるのでは。

（横溝委員）

- ・ 小中学校の立場からいうと、子どもに地域のことをもっと知って愛着をもってもらいたい。
- ・ 勤務している第二中学校では、集合住宅に住んでいる方が多く、地域の方がおらず、教員も和光市のことを知らないので、小学３年生以降地域のことを学ぶ機会が少ない。
- ・ 和光市は自然環境にも恵まれ、川越街道沿いということで、歴史的に見るべきものも多い。博物館に準ずる、地域のことを集約的に知る場所があればいい。
- ・ 生涯学習課が盛んに行っている放課後子ども教室なども、単発ではなくあるいは学校とは違う切り口で開催されると、子どもの地域への理解が深まるのではないかと思う。

（村山委員）

- ・ 和光国際高校の校長先生がおっしゃったように、リーダーシップをとれる子が確かに少ない。
- ・ スポーツ少年団にとってリーダーが育たないことが危惧される。指導者によって子どもの活動の仕方・方向も変わってくるので。
- ・ スポーツを通して礼儀・ルールを学びながら、リーダー的存在になれる子が増えれば。
- ・ 小学生まではお母さんや地域との密着する機会・事業がある。しかし、中高生になるとそれがなくなるので、時間をもて余す子どもには、その居場所づくりが大切。
- ・ 屋外を含め、子どもたちが活動できる場所、そしてその中からリーダーを育てていくことのできる場所が必要。小学生だけでなく、中高生にも目をむけていきたい。

（北原委員）

- ・ 実際に私が地域の子育てに何ができるかを考えたときに、孫育ての講座開催の案が出てきた。
- ・ 自治会の班長としての経験から。アパートに住む子育て世代が自治会に入らないので、理由

を聞いたら、誘いが無かったからと言う。自治会と育てる会は一体なので、地域での子育ては自治会に入ってもらうことが第一歩。

(小林委員)

- ・ 和光市は人の出入りが激しく短期間住む人が多いので、孤立して子育てせざるを得ない状況にある。そのため、沢山のネットワークを作ってつながっていく必要がある。
- ・ 子どもは、うるさい、汚い、迷惑と考えている地域住民が多くなっている。地域の子育て力にとっては、問題であり危機的状況。日頃から、子育てに直接関係しない人も巻き込んでいければ。例えば、年齢層の上の方々、独身の方、子どものいない夫婦など。
- ・ 「新倉ふるさと民家園」は、文化財保護を目的としているとはいえ、多機能、多世代向けの施設・事業体なので評価される。こういった拠点が小規模であっても市内に幾つかあるといいのではないかな。

(井上委員)

- ・ 高齢者との交流。
- ・ 自治会の活用。自治会には入らなくても育てる会には入りたいという人も。
- ・ 人材活用制度など利用して、得意分野をもつ人の協力も。子育てサークルを作って活動していただくなど。
- ・ 放課後子ども教室に自治会が協力。

(藤田委員)

- ・ 時代は動いている。「今の人たちはなっとらん」とよく聞くけれど、一方的に昔を伝えるというのではなく、高齢世代と若い世代とがお互い聞き合うことによって一つの道が見えてくるのでは。
- ・ どのように孫と係わっていいかわからないが、両親が外で共に働く今、祖父母が求められているのも現実。祖父母は孫を甘やかすだけではダメ。子どもに世の中には色々な世代がおり、自分たちが王様でないことを知ってもらう。
- ・ 競争を生む塾に行く事で「個」は育つが、皆で連携することが学べない。塾の必要性が、高齢者にはわからない。一方、学校では何を教えているのか？という疑問が出る。
- ・ 地域には学校へ行かなくなってしまった子どももいる。勉強についていけなくなり小学校から不登校になり、高校卒業となっている今でも生活への意欲がない様子を見るとかわいそう。私たち大人は何をしてきたんだろうか。子どもを自由にしてやりたい。
- ・ いろいろな講座をやっているが、学校で勉強してきて、放課後まで勉強するのはどうかなと思う。子どもが自由に自分たちの発想で遊べる所があって、それを大人が見守っている形が取れば理想かなと思う。

(大谷議長)

- ・ 皆さんそれぞれの立場からお話しいただいた。本日のテーマからすると、PTA連合会会長

と民生委員から選出の委員が見えていないのは残念。

- ・ “中高生の居場所”については、公民館や児童センターに場所を設けるというような話は以前より出ている。
- ・ 実際にお子さんたちと係わっている方々のご意見は？

(横溝委員)

- ・ 塾については、皆さんが思っているほど、全員が塾に行っているわけではない。塾に行っていないお子さんで、成績もよく、生徒会活動・部活動もし、生活もしっかりしている子どももいる。塾に行っているお子さんで、成績・部活・家庭生活など中途半端なケースも多く、子どもが何を目標としているのか、トータルを見てサポートが必要。
- ・ 不登校は、成績の良し悪しで生じない。親自身が子どもとの係わりがうまくできない、子ども自身もほかの子どもとの係わりができないという事なので、社会教育の中で色々な体験をさせられるとよい。
- ・ リーダーの不足という点については、最近は中学校の生徒会も女子が多い。男子で元気な子が少ない。色々な活動を通して男子のリーダーの育成をする必要がある。
- ・ 不登校の件について。価値観として、いい中学校、いい高校、いい大学、いい就職しましょうという単線的な考えではなく、自分の特性を活かしていくことを考える。ほかにも目を向けられるようにし、引きこもりにならないように、土日には地域の活動などをして、学校でも立ち直れるようになれば。

(大谷議長)

- ・ 仕事の関係先、「たまり場」に「もくれんハウス」から子ども連れの若い人が来る。中には、鹿児島や北海道から移ってきた人たちや地域の人と知り合いたいと願っている人も結構いる。「また、ばあばに会いに来てね。」と声をかけている。
- ・ たまり場は中学生の通学路になっているので、子どもたちが立ち寄って来る。
- ・ 地域で子どもたちの集まることのできる場所や若いお母さん方が地域の人と触れ合える場所があればいいと思っている。

(小林委員)

- ・ 「もくれんハウス」は、市内のNPOわこう子育てネットワークが市の委託を受けて運営している。建物は古いが、小さいお子さんを持ったお母さん方がひとときくつろぎ、情報交換できる場として賑わっている。
- ・ たまり場、あるいは最近使われている言葉“地域の縁側”を増やしていく際に重要なことは、物理的な場所を確保することに加え、施設スタッフと利用者間の会話、気付き、学びができているかがポイントである。つまり、スタッフと利用者との関係をうまく作れるかである。例えば、古民家のサポーターは利用者とうまく接している。
- ・ スタッフと利用者の関係をうまく築けるか、この専門性について考えていかなければいけな

い。生涯学習課で色々な講座を行っていく際に、コミュニケーション・スキル、ファシリテーター・スキルをじっくり育てるプログラムがあってもいいのではないかな。

- ・ お年寄りに今の子育てについて学ぶ機会を作っていったらという考えはよい。男の子問題にも通じるが、情報過多、競争社会の中で昔以上に子どもも親もしんどい中で生きている。頭ごなしに昔の方はこうだったというのではなく、昔と今の違いを知って、お年寄りに何ができるか考えてもらいたい。そのことに生涯学習課が係わっていくといいのではないかな。

(井上委員)

- ・ 大人のストレス、病気が子どもに影響する。

(小林委員)

- ・ 親に余裕がない。働いている親だけでなく、専業で子育てしているお母さんも「ちゃんと育てられて当たり前」というプレッシャーの中で、祖父母が遠く離れている人も多く、しんどい。
- ・ 「もくれんハウス」などではそういうしんどいお母さんの心をほぐしている。
- ・ 子育てに遊びの要素が必要。スポーツも大事だが、禁止事項や決まりごとのない自由な遊びを通じて学ぶ機会が不足している。
- ・ 「冒険遊び場」や「プレイパーク」と呼ばれる遊び場が全国各地に広がってきている。そこには、子どもたちの自主性や想像力で遊びを作り出しそこから学んで育っていくことを地域の大人がサポートしていく活動がある。和光市にはないが、光が丘公園、世田谷、県内では越谷、戸田、草加などには見られる。

(北原委員)

- ・ 自分の息子が中高生の頃、遊び場がなかった。
- ・ 公園ではボールは禁止、路地でのキャッチボールもあたりに気を使いながらなので、結局家の中でゲームとなってしまう。児童センターは遠い。中高生の遊べる広々とした公園があればと前から思っていた。

(小林委員)

- ・ 学校は中高生にとって居心地のいい場所になっているのか。

(横溝委員)

- ・ 人それぞれ。
- ・ 勉強は楽しいだけではないので、部活に夢中になっているお子さんも多い。
- ・ トップレベルの部活は場所提供など優遇されているが、体力をつけたい、楽しく運動をという中学生がやるような場所がない。やることがないお子さんがゲーム、テレビ、漫画に走るということになる。その結果体力低下につながり、小学生も含め問題となっている。中高生が基礎体力を楽しくつけることができるようになれば。

(小林委員)

- ・ 最近格差社会といわれているが、子どもたちの間でも生徒会やスポーツもそこそのトップレベルの層とそうではなくぼんやりと不安や不満を抱いている層とわかれていっているのではないか。気持ちのモチベーションの格差が成績や体力に現れてくる。このモチベーションの格差は、成人しても仕事ができない、社会貢献ができない、家族をもつことができないなどということにつながり、長期的に見て問題である。「私も捨てたもんじゃない」と思えるよう、地域で支援できたら。学校だけではむずかしいので。

(大谷委員)

- ・ いろいろな意見が出たが、それぞれの分野に持ち帰って、この問題に対して、活躍していただければと思う。
- ・ これで本日の議事はすべて終了する。

(事務局)

- ・ 和光市は若い人、子育て世代が多い。こういう方々を地域や市が孤立させずに、積極的にアプローチしていくことが大切であると感じた。
- ・ 本日いただいたご意見を今後の社会教育事業の推進に反映できるよう努力したい。

5 その他

- ・ 特になし

6 閉会